

メイヤーズカップ2024 in 紀の川

大会競技規定書

フライトイン紀の川実行委員会

大会規定

【参加資格】

大会終了までJHFフライヤー登録が有効で、かつJHFB級技能証以上を所持しているものに限る（申請中は不可）。但し、B級技能証所持者については、教員同伴、NP証保持者については、教員の推薦が無ければ参加はできない。

また、心身とも競技が出来る健康な状態でなければならない。

【装備について】

適切な防護用ヘルメット、120日以内にリパックされた緊急用パラシュートを装備すること。

大会中無線の使用は、安全上緊急を要する場合以外使用を禁止する。

【事故及び損害賠償】

大会期間中、万が一アウトサイドや事故、傷害、損害が生じた場合、紀の川フライトパークルールに従い、本人の責任において速やかに対処を行い、大会本部に報告すること。また、主催者及び大会関係者に対して責任追求、損害賠償の請求を行わないこと。

【失格】

雲中飛行など危険な飛行、及び危険な着陸と判断される場合、役員の判断で失格とする場合がある。

【大会の成立】

参加選手全員（途中棄権を除く）がテイクオフし、点数あるいは罰則を受け取った時に、1本で成立する。時間は、1人2分×参加人数の間、テイクオフがオープンしていればその日の競技は成立する。

【順位の決定】

各クラス、ターゲットと爆弾落としの合計点で順位を決定する。1本の場合は、ターゲットの順位で決定。2日間飛べた場合は、ベスト1本を得点対象とする。デュレーションは点数に反映せず特別賞を設ける。

競技内容

【競技種目】

ターゲット

ランディング場に半径20mのランディングゾーンを設け、より正確にかつ、安全に着陸する事を競う。

爆弾落とし

ランディングゾーンに、飛びながら爆弾（砂袋）を落とす。

デュレーション

滞空時間の長さを競う。

【競技方法】

ターゲット

ランディング場に半径20mのランディングゾーンを設け、円内に最初に足の裏で着地した地点が得点の対象となる。初日の終了が途中の場合、2日目はその続きから開始とする。

爆弾落とし

ランディングゾーンに爆弾を飛びながら落とし、ゾーンの外側へ安全にランディングする。

デュレーション

テイクオフ～ランディングまでの時間を計測する。

スクールクラス（B・NP）

1本目 ターゲット

2本目 爆弾落とし

3本目 リフライト（希望者のみ。どちらか1本を選択するが、前成績は消滅）

1日で3本飛べた場合、翌日も同内容。

パイロットクラス（P）

1本目 ターゲット

2本目 爆弾落とし、デュレーション

1日で2本飛べた場合、翌日も同内容。

競技規定

【受付】

ランディング本部にて、初日8時45分～9時15分、2日目9時00分～9時15分の間大会受付を行う。

【競技時間】

選手は、原則として、決められたテイクオフ順にテイクオフをする。テイクオフの合図はテイクオフディレクターが行う。

【報告】

競技フライトをしない選手は、必ずテイクオフディレクターあるいは大会本部に報告すること。

【得点計算】

ターゲット

中心から最初に足裏が接地した地点までの距離をcm単位で計測する。

0cm=0点(1cm離れるごとに+1点)。但し、キャノピーが接地する前に、足裏以外の身体の一部あるいはハーネス(フットバー、アクセル、脚カバーをのぞく)が設置した場合は、危険行為とし2000点とする。

爆弾落とし

中心から爆弾が落ちた地点までの距離をcm単位で計測する。0cm=0点(1cm離れるごとに+1点)。

【ランディングルール】

着陸で同時侵入にならないように十分注意する。同時進入になりそうだとランディングディレクターが判断した場合、回避の指示をだす。その場合は、速やかに従い、安全に留意して大きくアウトサイドにランディングすること。その際、ランディングジャッジにより、リフライトが許可される。

その他注意事項

【大会本部】

ランディング場横に置く。

大会期間中緊急連絡は、携帯電話、上空利用デジタル無線または特定小電力の無線を使用しチャンネルは当日発表する。

【アウトランディング】

アウトランディング等により農作物その他に被害を与えた場合、各自で処理をし、必ず大会本部に報告すること。

【その他】

*参加のキャンセルは、如何なる理由があってもエントリー費は返却しない。

*貴重品等は各自で保管とする。盗難・紛失等があっても主催者並びに関係者は責任を負わない。また本部ではお預かりできない。

*昼食等は各自持参の事。

その他は、紀の川フライトパークエリアルールに従うこと。

※大会本部連絡先 0736-77-7088